

セッション名：シンポジウム

セッションタイトル：3D マッピング・イメージングを用いた不整脈の診断と治療

座長：青沼 和隆（筑波大学医学医療系循環器内科）

山部 浩茂（熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科）

頻脈性不整脈に対する高周波カテーテルアブレーションは、当初、発作性上室性頻拍などの頻拍回路が容易に同定可能な頻脈性不整脈に対し行われ、三次元マッピングを必要とせず治療が可能であった。その後、アブレーションの適応となる頻脈性不整脈の範囲は拡大し、種々の心房頻拍、非通常型心房粗動や器質的心疾患に伴う心室頻拍、さらには心房細動などに対し行われるようになってきた。このような頻拍の機序を解析し効果的な治療を行うためには3D マッピングシステムによる三次元での電気的情報の把握が不可欠となってきた。現在、我が国では CARTO System、EnSite Array、EnSite NavX 等の3D マッピングシステムによる解析装置が使用され、その有用性が認められている。これらのシステムはカテーテルナビゲーションあるいは心腔内興奮伝播解析の原理が異なっているものの、いずれも Complex Tachyarrhythmia の診断において高い能力を有している。また、近年では術前に撮影しておいた CT あるいは MRI の画像をインテグレートすることでより精密な三次元像でのカテーテル位置の把握および興奮伝播解析が可能となってきた。さらにこれらのシステムを用いることにより X 線透視に依存しないカテーテル位置の把握が可能となり、被爆時間の軽減が得られつつある。本セッションではこれら3D マッピングシステムを用いることにより得られる不整脈診断治療でのアドバンテージ、及び今後のより高度な治療への発展の可能性について議論したい。